

令和3年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）  
「CBRNEテロリズム等の健康危機事態における対応能力の向上及び人材強化に関わる研究」

（総合）研究報告書

「日本の安全保障に関する研究」

研究分担者 竹島茂人

（沖縄県立八重山病院・医局・救急科部長）

（前自衛隊中央病院・診療科・総合診療部長）

研究要旨

令和2年ダイヤモンドプリンセス号における新型コロナウイルス感染のパンデミックから始まり、現在も続く国内での広域感染は、通常診療のみならず経済にも大きな影響を及ぼしている。感染の発端となった中国は、わが国に迷惑をかけた責任を感じないだけでなく、尖閣諸島を自国の領土とすべく数々の圧力を及ぼしてきている。

第1種感染症患者受入病院である自衛隊中央病院での感染対策を検証するとともに、尖閣諸島に最も近い公的医療施設である沖縄県立八重山病院の有事における役割の検証を行った。

A. 研究目的

- ①感染対策としての有効策を検証する。
- ②重症傷者搬送についての問題点を明らかにする。

B. 研究方法

- ①自施設内での情報収集
- ②各方面への電話等による情報収集  
（倫理面への配慮）なし。

C. 研究結果

- ①CDCのガイドラインに則った陰圧室を、ERをはじめとした院内の必要箇所へ、NBC患者対応出来るように設置していたことが功を奏していた。
- ②尖閣・台湾有事の際に、傷者の搬送時間を考えると、重症患者の救命には、八重山病院でDCSをはじめとしたDCRが必要である。

D. 考察

病院をはじめとした施設には、夫々が作られた歴史的背景や役割がある。安全保障の点からは、病院は通常患者のみならずNBC患者を受け入れる事にも配慮した構造を持つ必要があると思慮する。

また、地理学的に有事の際に役割が与えられる可能性が高い医療施設には、その役割が担える設備を与えなければならない。

E. 結論

- ①病院の設計段階から、各種事態に対応できるように図面を引かなければならない。
- ②沖縄県立八重山病院そして宮古病院傍には、大型ヘリポートが必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表

- ①自衛隊中央病院の救急医療の現状とERでの新型コロナ感染（疑）患者受入の紹介

(日本病院学会雑誌 2022. 69(5) 36-40)

2. 学会発表

①第71回 日本病院学会

②第50回 日本救急医学会 (予定)

G. 知的財産権の取得状況

1. 特許取得：なし。
2. 実用新案登録：なし。
3. その他：なし。